



實性

令和八年 第二号 お正月発行



住職 画

令和八年の新春を迎え、謹んで至心に篤い三宝を誦し、併せて檀信徒各位のご平安を祈念申し上げます。

令和八年丙午歳元旦

御題「夢」

住職	松野大英
副住職	松野大樹
筆頭総代	遠山長昭
総代一同	
法類	後藤了寛
寺族	松野弘美

修正会

一年の健康と幸せをお守りする修正会ですが、感染防止のため、念を入れて中止とさせていただきま
す。もちろん「心願成就」「家内安全」「無病息災」
「ご先祖供養」「精霊菩提」等々のご祈願は、住職・副
住職で「修正会法要」でお勤め致します。

お札・絵馬・交通安全ステッカーは、ご用意してお
りますので、ご報下さい。



午歳

本年は、六十年目の丙午の歳です。この年には、火事が多いとか。

一日を半分に分けると午前と午後ですが、一日二十四時間を十二で割り、各時間が二時間、これを干支で合わせると、子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥となり、一日の始めの夜中の0時のこと、そこから午は七番目です。から、昼の十二時となり、午の刻は、一日を半分に分ける間帯にあるので、その前が「午前」その後が「午後」というわけになります。

さて、仏教において「午」に関しては、馬頭観音菩薩様がまず浮かびます。馬頭観音は、六観音の二つにて、六道（地獄・餓鬼・畜生・修羅・人道・天道）のうち、畜生道の救い主とされています。

サンスクリット語ハヤグリーウア「馬の頭を持つもの」の意にて、ヒンズウ教の主神・ウイシュヌの化身にて、宝馬が四方を駆け回って敵を制圧するように、一切の魔敵を降伏させ、自らは解脱を求めず、娑婆世

界にとどまり、馬が草をむさぼり食うように諸悪を駆逐し、衆生の煩惱を喰らいつくことを使命としています。他の観音様のお姿とは違い、馬の頭を人頭にいただき、温顔柔和な相ではなく、忿怒（ふんぬ）の相にて、鬼面をむき、牀は赤い色をして「父にゲンコツ」という厳しい情のあることを教えています。

鎌倉時代より、馬が重要な交通機関、そして農作業と、役割をはたし、大切に扱われて参りました。

実性寺にも、銀杏の木の下に、総代・鈴木幸夫様がお守りする馬頭観音がございます。

参詣の折、一度お参りください。



馬頭観音

嵯峨面

浄土宗特別寺院・京都・清涼寺に伝わる、嵯峨狂言に使われた面を復刻した民芸品です。

古い和紙を使い、趣のある面です。

客間の壁に飾ってあります。



伏見焼

京都伏見稲荷に伝わる焼物です。現在ただ二軒のみ残る土物の人形です。

客間の床の間に飾ってあります。

「嵯峨面」ともどもご覧ください。



秋季彼岸会報告

「秋の彼岸」は「月の彼岸」ともいわれます。月の光は、仏様の光です。この御光にちなみ「献灯」をしていただきました。

檀信徒各位とご一緒に声を出してお経をお唱えできましたこと、大変嬉しく感謝申し上げます。

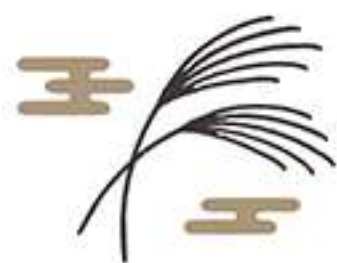


令和八年年回表

一周忌	令和七年
三回忌	令和六年
七回忌	令和二年
十三回忌	平成二十六年
十七回忌	平成二十二年
二十三回忌	平成十六年
二十七回忌	平成十二年
三十三回忌	平成六年
三十七回忌	平成二年
四十三回忌	昭和五十九年
四十七回忌	昭和五十五年
五十回忌	昭和五十二年

年間行事予定

一月	三日(土)	修正会
二月	十五日(日)	涅槃会
三月	二十日(金・祝)	春季彼岸会回向
四月	八日(水)	花まつり
五月	二十三日(土)	施餓鬼会
七月	十二日(日)	七月盂蘭盆会回向
	十三日(月)	迎え盆
	十六日(木)	送り盆
八月	十三日(木)	迎え盆・八月盂蘭盆会回向
	十六日(日)	送り盆
九月	二十三日(水・祝)	秋季彼岸会回向



❖ 令和七年度新盆奉納金および御仏具料で客殿・トイレにエアコンを設置いたしました。客殿エアコンが三台同時稼働でご迷惑おかけいたしましたがおりましたが、老朽化もあり、この度一台ずつ稼働できるように入れ替えました。



❖ トイレが西日があたりとても暑く、また冬はとても寒い
ため、この度それぞれにエアコンを設置いたしました。



❖ ご法要等のお塔婆を建立される方は、遅くとも十日前迄にお申し込み下さい。お電話よりファックスの方が正確です
のでご利用下さい。

ファックス番号 03(3883)3227

振替口座 00190-6-258873

※振込用紙をご入用の方はお申し出下さい。

〒121-0061 東京都足立区花畑三十七-十八
電話 03(3883)8866

浄土宗 實性寺

<http://www.jisyoji.com>

